

令和2年度 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

令和3年3月

	1	2	3	4
項目	学習指導について	生徒指導について	進路指導について	特別活動について
重点目標	組織的な授業改善が図れるよう指導体制を支援する。	交通事故の未然防止	生徒の進路意識の高揚を図り、第1志望進路を実現するための効果的な支援を行う。	自主的、実践的な集団生活を通して、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケートを年2回実施した。・Googleフォームを活用することで、アンケート実施の省力化を実現し、その分、結果分析と授業改善に向けた検討の充実を図った。 ○校内授業研究会（公開）を11月に実施した。（5月は中止。）・授業改善目標の柱を明確にしたほか、教科を越えた参観・協議を促し、研究の充実、深化を図った。 ○研究紀要を発行した。・継続的な取組ができるよう記録した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通事故の抑止やクマ被害の防止となるように、生徒指導部会報や校内放送、緊急メールを活用し、生徒・保護者への連絡、注意喚起など、適宜情報を伝達した。 ○交通安全教室（生徒会企画）を実施した。（他1回は中止。） ○保護者や関係機関の協力を得て、年5回の敬天週間を実施した。 ○うぐいす坂乗り下り禁止の期間の設定して指導を強化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現状を把握するため、適宜成績を分析し、学年と共有した。また、進路資料、進路通信、キャリア教育資料、学年進路通信等の発行物や、進路講演会、学年集会等での声かけ、実力テストや模擬試験等の実施等を通じ、年度を通して生徒の進路意識を涵養した。 ○コロナウイルス感染症対策を踏まえた進路指導態勢づくりに努めた。 ○「総合型・学校推薦型選抜対策室」を設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋高三大行事のうち、運動会と秋高祭は中止せざるを得なかったが、学級対抗は実施することができた。 ○部活動における新型コロナウイルス感染症感染防止を第一に考え、状況に応じて適宜各部に対して防止策を呼びかけた。 ○第3回「北雄の翼」は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止となった。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケートの効率化を図ることができたほか、教科会や職員会議等で結果について話し合う機会を設けたことで、各教科や職員全体で課題が共有され、「授業の実施、再検討、改善策の実施」の流れを作り上げることができた。 ○校内授業研究会（公開）は、コロナ禍により外部参加者が少なかったことが残念であったが、教科を越えた活発な論議、外部指導者による指導助言により、内容は充実したものとなった。参加者アンケートの評価は概ね好評だった。（大変よかった57%、よかった43%） ○研究紀要は、授業研究会の振り返りアンケート結果を掲載するなど、後から読んで参考になるような内容となるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車の事故件数は10件だった。昨年比50%と減少させることができ、ある程度の成果があったと考えている。 ○自転車指導警告数もほとんどなく、交通安全への意識は高まっている。ただ、本校生とみられる高校生の自転車通行マナーについて、近隣住民より苦情の電話が数件あった。 ○年度当初、1年生の事故が連続した。学年別では2年生が比較的多く、自転車走行中の注意不足のケースが目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年や各教科と情報共有を図り、指導の協力の他、各学年の反省点の把握や問題点の共有などによって、各分掌と連携した指導態勢を築くことができた。 ○ICT機器を活用するなどして、充実した内容で講演会、進路分析会等を実施することができた。 ○東北大学総合型選抜Ⅱ13名・Ⅲ4名、東京大学学校推薦型選抜2名、国際教養大学グローバル入試6名合格（いずれも現役のみ）など、「総合型・学校推薦型選抜対策室」が有効に機能したとみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級対抗は、日程を延ばして実施した。感染症及び熱中症対策を講じて行うことができた。実施については、生徒・保護者アンケートで高評価だった。 ○各部活動において、感染防止を念頭に置いた練習や活動を行うことができた。 ○開催された大会が少ない中、運動部では4部延べ7名、文化部では4部延べ16名が全国大会へ出場した。 ○LHRの時数を確保し、進路学習や講話など多岐にわたる活動が行われた。 ○北雄の翼は、対面・オンライン併用の代替プランを検討中である。
評価	A	B	A	B
次年度への改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的な授業改善のための取り組みを継続していく。 ○ICT活用について、職員研修の充実を図って推進するとともに、その活用事例の共有化をすすめる。 ○教科を超えた授業参観を恒常的に高い、授業改善の気運を職員全体で高めることに努める。 ○校内授業研究会や授業アンケートの在り方、方法等を見直し、授業改善PDCAサイクルの実効性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回の交通安全教室を実施する（内1回は生徒会企画）ほか、うぐいす坂乗り下り禁止期間を設けるなど、未然防止の取組を強化したい。 ○引き続き関係機関（秋田東署、PTA、少年保護育成委員会）の協力を得て「敬天週間」を実施する。 ○送迎のルール徹底とともに、マナーを遵守する姿勢を持つように、年度当初から、保護者・生徒へ情報提供に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○諸業務の改善も含め、「総合型・学校推薦型選抜対策室」のように、学校全体で対応する進路支援態勢づくりを更に向上させたい。 ○進路行事などについて、現状で実態に合わない実施時期設定を見直し、内容を改善して、効果を高めたい。 ○難関大入試対応への研究は引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋高三大行事は、十分に感染症対策を講じながら、実施を検討していく。 ○今後も引き続き、感染状況等を注視しつつ、部活動に取り組みやすい指針、環境づくりに配慮する。 ○LHRを効果的に運用する。 ○対面・オンライン併用形式で実施予定の来年度「北雄の翼」において、多くの生徒が充実した研修を行うことができるように企画をすすめる。
学校関係者の御意見・御感想及び評価	<ul style="list-style-type: none"> ○中期ビジョンにあるとおり、研究授業を重視しつつ、日常的な授業参観等で授業（学習指導）の質を高める努力を意識的にされていると思います。 ○現状を踏まえて日々の学習指導体制を整えている。授業改善の3本の柱を明確にして研究会（公開）を実施した。さらに、振り返りをもとに研究会の「実施報告書」を作成した。授業改善に向かうチーム力を認めたい。 ○「知の探究」は、生徒の意欲を高めている。 ○コロナ禍のむずかしい時世にありながら、よくがんばっていると評価します。 ○コロナ禍の休業分を、各学年とも取り返すことができた。3年生では大学合格者数が例年を上回り、結果が伴っている。 ○次年度から生徒個々に配付されるタブレット端末の有効な活用に期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧なご指導と思います。事故件数は昨年より半減したものの、二桁の件数はまだ少し残念です。 ○身近にある基本的な交通ルールの遵守は社会規範の体得に直結すると思う。日々の生活指導を徹底するとともに、その基盤となる道徳教育を強化する必要がある。 ○交通事故防止だけでなく生徒指導を強化しなければならない他の課題があると察せられる。生徒も保護者も納得できる指導を尽くし、きちんと解決していただきたい。 ○生徒によるワークショップを行うなど新しいアイデアがほしい。 ○学校だけではなく、家庭での指導も必要ではないでしょうか。自転車が車両扱いになっていることをもっと啓蒙する必要があります。本校OBの県警の方の活用も検討を。 ○交通事故以外の案件について、再発防止をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一般的な進路指導を超え、キャリア教育として丁寧な指導を展開されていると思います。 ○大学入試改革等の新しい課題への対応を、全職員で意識をもって組織的に取り組んでいる。 ○「学校評価アンケート」の生徒の（たとえ少数派の要望でも）声を大切にできちんと取り上げて応え、指導をしていただきたい。 ○進路指導における、先生方の進路指導指標と、生徒に伝えるべきコンセプトは同じではないのではないか。 ○十分できていると思う。三者面談も数回あり、個別面談も充実していて、生徒の相談に答える仕組が整っているし、高い所に目標を置くよう指導もしていただいていると思う。 ○入試改革に対応した重点的な対策を望みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍という難しい状況の中で、積極的な指導を展開されていると思います。 ○コロナ禍でかなりの制限がある中、生徒のためにできることを工夫して取り組まれている。特に、LHRの時数確保から得られたメリットは大きかったと信じたい。ピンチをチャンスに変えている。 ○コロナ禍で活動が制限された。結果として目標は達成しなかったかもしれないが、それは不可抗力。Aに近い評価でもよいのではないのでしょうか。 ○学力だけではなく、人間性を養うには部活動や生徒会などで活動することはとても重要です。秋高ほど多くの部活動・同好会がある学校はありません。多様な受け皿があることはとても良いことだと思います。 ○コロナ禍にあっても、部活動に取り組みやすい環境づくりのため、一層の支援をお願いします。
評価	A	B	A	A

《 評価 》 A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。